

J T U

埼玉高教組

ニュース

NO. 653

発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギンタビル4F

くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

岸田政権による国民を欺くマインドコントロール

【安保関連3文書 閣議決定強行】

「安保関連3文書」は、日本が大量の長距離ミサイルなど攻撃的兵器を保有して中国や朝鮮などを一方的に仮想敵国と決めつけたうえで、自衛の名のもとに相手国を攻撃出来る軍事力を保有、行使することを正当化し、自衛隊のみならず市民も巻き込んで戦うために、5年で総額43兆円にも上る莫大な国費を軍事費につぎ込むものだ。

今回強行された閣議決定を許せば、戦後70年余、日本国憲法のもとで、曲がりなりにも「他国を攻めない国」として「専守防衛」を「国是」としてきたこの国の安保防衛政策は重大な転換をさせられ、「戦争をする国」に変質することになる。まさに「憲法違反」の文書が政府によって決定されたのである。

NHKの調査でもわずか30数%の支持率しかない政権が、「防衛」の名のもと、抑止力の強化を口実に民衆を戦争の危険にさらすことなど、許されるものではない。

【国会論議抜きでの政策転換】

これほどの重大な政策転換が、国会でまともに議論すらされず、社会的論議も行わないままに、与党と一部野党のなれ合いの下で、一内閣の閣議決定で性急に決めることは、立憲主義と民主主義を破壊し、禍根を千載に残す暴挙だ。

岸田内閣によって閣議決定された「安保関連3文書」はいたずらにアジアの軍事的緊張を高め、戦争の危機を招き寄せるものだ。

又、国債発行残高が1000兆円を超えようとしている財政状況や、エネルギー、食糧自給率の極端な低さ、対中国との貿易が全体の4分の1を超える経

済状態等を考えれば、軍事的緊張を高め軍事費に巨額な税金を投入する事の無謀さも明らかだ。

今平和憲法をもつ日本がなすべきことは、歴史と情勢の中で発生する様々な国際上の困難を武力で解決しようとする道ではない。これは「いつか来た道」のはずだ。

確かに、ロシアによる侵略行為、中国の脅威や北朝鮮によるミサイル発射など、私たちを取り巻く不安材料はある。しかし、まるで旧統一教会が行っているマインドコントロールのように、国民の不安を悪戯に煽り反対する声を抑えつけることで、再び暗黒の時代に逆戻りするのであれば、岸田内閣・自公連立政権が行っていることは旧統一教会そのものである。

【戦争を想定する前に】

戦争を想定する前にやるべき事があるはずだ。対話をしようという姿勢や外交でどうしていくのかという戦略をきちんと議論することだ。そうした経緯もなく、いきなり武力保持をうたうのは、戦争産業の為か。

私たちは岸田内閣がこうした危険極まりない施策を推し進めることに断固抗議する。岸田内閣の「安保関連3文書」閣議決定を撤回させ、彼らが進もうとする戦争への道を塞がなくてはならない。先の大戦を経て、私たちには、戦争への道を作らせない闘いを続ける責任がある。



腑に落ちないコロナキャンセル保険

師走に入り、今年の修学旅行の時期もほぼ終わった。一昨年のほぼ全面中止、昨年のおずおずの実施に比べると、心理的ハードルはかなり下がっての実施となっているようだ。

修学旅行には、高校(学校)生活最大の行事との称号がしばしば贈られる。原則団体行動、早朝から深夜までの教員の超過勤務の上に成り立つ、極めて日本的な行事でもある。一方、経済を回すうえでも重要な役割を演じており、世の中には、修学旅行を是非実施させたい思惑が見え隠れする。

さて、オミクロン株になり、市井ではコロナは5類で十分という認識が広がっているものの、依然として2類相当の感染症。感染時のリスク(面倒)は大きいまま放置され、そこに保険業者が付け込む隙が生じる。

一昨年は行政が旅行中止・不参加時のキャンセル料を補填してくれたが、今は、保険業者頼み。これがコロナキャンセル保険だ。感染・濃厚接触による旅行の不参加(個人)、感染拡大による旅行中止(クラス・学年全体)の場合、保険加入者はキャンセル料分を受け取れるという仕組みだ。保険料は基になる修学旅行の泊数や旅行代金にもよるが、概ね3000

円程度、1学年分だと100万円くらい、結構な上がりになる。

ところで注意事項を読まないで後で落とし穴がある。
①同じ濃厚接触者でも、家族との濃厚接触では保険は下りない。あくまでも学校を介しての事例に限る。
②旅行団として教員も全員加入が前提。

さて本部に届いた落とし穴の例を挙げよう。

①では、家族の濃厚接触者となり、待機明けを待って修学旅行に途中から参加する予定が、結局、本人も感染し修学旅行は不参加となったが、保険金は下りなかったのである。何のための保険料か！

②では、教員の保険料は、仕事で行くのに県費ではなく個人負担というのが現在のルール。払う筋合いがないから出張に行かないとは言えないだろう。落としどころは団体費からの出費になろうが、うまくいったとしても、結局は保護者負担である。

十年くらい前に新型インフルエンザが流行した時、キャンセル保険などなく、そもそもそんな保険に入る発想も無かった。コロナは特別とうまく煽られて、カモにされていないか？ とにかく腑に落ちないコロナキャンセル保険なのである。

関高連 本格開催！ 12/17, 18

関高連(関東地区高教組連絡協議会)が3年ぶりに上尾の地で本格開催された。この会議は、埼玉千葉東京神奈川栃木などの関東にとどまらず、新潟静岡石川愛知の高教組、また日教組とも連携を取る日高教(日本高等学校教職員組合)からも参加がある大変大きな行事である。1日目は日教組本部からの最新情勢報告、栃木高からの報告後、分科会に分かれての議論(2日目午前まで)であった。

第1分科会は賃金や労働条件、第2は高校改革や教育問題、第3は組織や定数、専門部課題につ

いて議論が行われたが、いつも感じるのは、各県の本当の実態がわかる、ということだ。関東の県教委も、教委同士、お互い情報交換しているのだろうが、どうしたって表に出せないものがある。しかし、この会議は組合であるが故に、「実態」が情報交換される。この違いは大きい。そうした情報を交換することで、地元の課題解決に結びつけたり、参考にしたりすることが出来る。今回も活発な情報交換がなされ、また参加者同士の交流も出来、有意義な会議であった。組合の意義を改めて痛感した2日間だった。

今年最後の くじら会議

12/26(月) 15時～ 浦和コミセン 第9集会室